

◎ 彙報

第五七回原爆文学研究会

○日時 二〇一八年二月二二日(土)、二三日(日)

○会場 九州大学西新プラザ大会議室

【一日目】

○研究発表

被ばくと奇形 原爆映画におけるその表現と科学 中尾 麻伊香

○セッション 『原爆に生きて』から『この世界の片隅で』へ

——山代巴を中心に

報告1 『原爆に生きて』と山代巴

——ジェンダーの問題に着目して キアラ・コマストリ

報告2 『この世界の片隅で』の成立過程

——大牟田稔資料を手がかりとして 宇野田 尚哉

○「原爆文学」再読6——吉本隆明『「反核」異論』

坂口 博 村上 克尚 加島 正浩

【二日目】

○研究発表

埋葬された生と出口のない苦痛

——「韓国の原爆文学」の地理 通訳 金文柱 崔範洵

○ワークショップ「歴史修正主義と一九九〇年代」

報告 山本 昭宏 倉橋 耕平

コメント コメント 中谷 いずみ

第五八回原爆文学研究会

○日時 二〇一九年三月三十一日(土)

○会場 広島大学東千田キャンパス東千田校舎A棟一階講義室

○研究発表

放射能汚染、反核運動、被爆者——21世紀ヒンディー語小説

『マラング・ゴダ ニルカーント フア』を巡って

モハンマド・モインウッディン

戦後佐世保における核の「軍事利用」と「平和利用」

——原子力船「むつ」の受け入れ騒動を中心に 東村 岳史

第五九回原爆文学研究会

○日時 二〇一九年七月二七日(土)、二八日(日)

○会場 広島大学東千田キャンパス東千田校舎A棟四〇二講義室

【一日目】

○研究発表

原民喜『原爆以後』再考察

——「鎮魂歌」を中心に 遠田 憲成

○TVドキュメンタリーと原爆小頭症 趣旨説明 山本 昭宏

ドキュメンタリー『原爆が遺した子ら』

(二〇一七年中国放送製作) 上映

コメント・アフタートーク

平尾 直政 東 琢磨 大牟田 聡

全体討論

【二日目】

○研究発表

被爆した南方特別留学生と戦後の日本社会

——その記憶の形成の史的展開について 平野 裕次

“Unspeakable Thoughts Unspoken”をめぐって

——『父と暮せば』と *Blowed* に見る「近代的生」 小林 朋子

○「原爆文学」再読7——青来有一『爆心』 楠田 剛士 畑中 佳恵 四條 知恵